

氏名	田口 潤
学位の種類	博士（社会福祉学）
学位記番号	甲第 79 号
学位記授与の日付	2021 年 3 月 19 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	介護福祉現場で働く介護福祉士の「キャリアコミットメント」「組織コミットメント」に影響を及ぼす「経験」と「知識」,「スキル」 ー養成施設を卒業したキャリア初期の介護福祉士を対象にしてー
論文審査委員	審査委員長 田村 真広 審査委員 菊池 いつみ 審査委員 大島 巖 審査委員 壬生 尚美 審査委員 木村 容子

【論文要旨】

介護福祉現場で働く介護福祉士の「キャリアコミットメント」「組織コミットメント」に影響を及ぼす「経験」と「知識」、「スキル」
—養成施設を卒業したキャリア初期の介護福祉士を対象にして—

日本社会事業大学大学院満期退学

田口 潤

本研究の目的は、養成施設ルート介護福祉士が介護福祉現場で日々働く「経験」やそれから学んだ「知識」「スキル」の関連性に着目しつつ「キャリアコミットメント」、「組織コミットメント」に影響を与えている要因を検討することを目的とした。そのために、養成施設ルート介護福祉士を対象に2つの調査を実施した。

まず、A養成施設を卒業した5年働いた介護福祉士を対象に、介護福祉現場での「経験」と獲得した「知識」「スキル」に関するインタビュー調査を実施し、テーマのカゴテリー化を活用し分析した。結果は、介護福祉教育にかかわっている方からスーパーバイズにより、最終的に「経験」は、14のコアカテゴリーと、「知識・スキル」は、3つのコアカテゴリーを抽出した。

次に、インタビュー調査で抽出されたコアカテゴリーを使用し質問紙を作成し、東京都の特別養護老人ホームに5年働く養成施設ルート介護福祉士を対象932名に質問紙調査を行った。結果として、134票回収し、その中のキャリア初期の介護福祉士79名を対象に因子分析（重みなし最小二乗法・プロマックス回転）を用いて、「経験」「知識」「スキル」の構造を明らかにした。「経験」は5因子に分かれ、「知識」は2因子、「スキル」は2因子、「キャリアコミットメント」1因子、「組織コミットメント」1因子で構成された。

最後に、重回帰分析（強制投入法）を用い、「キャリアコミットメント」に影響を及ぼしているのは、【多職種協働のための知識】【他の分野を融合した幅広いスキル】であった。そして、「組織コミットメント」に影響を与えているのは、「知識」としての、【多職種協働のための知識】であることが示された。

キャリア初期の養成施設ルート介護福祉士にとって、「キャリアコミットメント」や「組織コミットメント」に影響を及ぼすような「知識」、「スキル」や「知識」「スキル」に影響を及ぼすような「経験」を促すことが重要である。

Abstract

"Experience "knowledge" and "skills" affecting the "career commitment" and "organizational commitment" of long-term care workers.

- The targets are care workers have recently graduated from training school –

Jun TAGUCHI

The purpose of this study is to examine how factors such as experience, knowledge, and skills influence the "career commitment" and "organizational commitment" of training long-term care workers in their early careers.

My survey targeted the welfare care workers who have recently graduated from training school. Sixteen subjects were interviewed regarding what they experienced in their caregiving career and the knowledge and skills they acquired through their experiences. A questionnaire survey was conducted to elucidate these factors, using statistical data analysis. The questionnaires were distributed among 932 care workers who have recently graduated from training school.

Interview data were classified in terms of similar contexts, and were grouped into positive, negative, and neither positive nor negative experiences. I extracted 14 core categories of "experience," and three core categories of "knowledge," and "skill." As a result, we need to pay attention to the relationships among experience, knowledge, and skills.

The number of valid responses was 134 (response rate: 14.4%).

As a result of the factor analysis, five factors of "experience," two factors of "knowledge," and two factors of "skill" were identified. Factor analysis (weight pear at least two multiplication and professional Max Co. revolution) was performed and the structure of "experience," "knowledge," and "skill" was made clear. Multiple regression analysis (forced input method) was performed. The finding was that knowledge for multidisciplinary collaboration and possession of a wide range of skills that fuse fields have great influence on "career commitment." Thus, knowledge for multidisciplinary collaboration greatly influences "organizational commitment."

I discuss the results of this study to learn from workers' experiences in the field of care. These results are especially important for long-term care workers who have graduated from training schools but who are still in the early stages of their careers. Long-term care workers learn to love their work by acquiring the knowledge and skills that influence their career commitment and organizational commitment.

The purpose of this study is to examine the factors of experience, knowledge, and skills and their influence on the "career commitment" and "organizational commitment" of training long-term care workers in the early stages of their careers. The following is clear:

- 1 . I extracted 14 core categories of "experience," and three core categories of "knowledge" and "skill."
- 2 . As a result of the factor analysis, five factors of "experience," as well as two factors of "knowledge," and two factors of "skill" were identified.
- 3 . Multiple regression analysis (forced input method) was performed. The discovery was that knowledge for multidisciplinary collaboration and possession of a wide range of skills that fuse fields have a great influence on "career commitment." Additionally, knowledge for multidisciplinary collaboration greatly influences "organizational commitment."

【審査結果の要旨】

1 審査委員の構成と審査の経過

博士論文審査は、日本社会事業大学大学院学則、同学位規定及び同博士後期課程修了細則に基づき、第3次予備審査及び最終審査から成り立っている。審査委員は、社会福祉学研究科委員会にて選任された大学院担当の専任教員5名が担当した。5名の氏名と専門分野は以下のとおりである。

審査委員長	田村 真広	学校カリキュラムの歴史と理論、福祉教育論
審査委員	菊池 いづみ	高齢者福祉政策、福祉政策
審査委員	大島 巖	福祉プログラム評価、反スティグマと精神保健福祉
審査委員	壬生 尚美	介護老人福祉施設におけるケアの変遷
審査委員	木村 容子	子ども家庭福祉、子育て・親育ち支援

2020年10月30日までに提出された博士論文を審査委員がそれぞれ精読し、11月28日に公開口述試験を行った。2021年2月18日の社会福祉学研究科委員会にて審査委員会の結果報告を受け、博士(社会福祉学)の学位を授与するにふさわしいとの提案がなされ、了承を得た。本学学長は、これらの手続きを経て、2021年3月19日に「博士(社会福祉学)」の学位を与えることとした。

2 博士論文・最終試験の評価

審査委員からの指摘事項に対して、誠実かつ的確な加筆修正を施し、完成させた本課程博士申請論文をもって、最終試験の評価を合格と判定した。

本論文では、養成施設ルートから輩出された介護福祉士が、介護福祉現場で働きながら獲得した「経験」や「知識」「スキル」の関連性に着目し、「キャリアコミットメント」と「組織コミットメント」に影響を及ぼす要因を検討している。介護福祉現場で働く介護福祉士が「経験」から学んだことがらを可視化しようと試みている。とりわけ、キャリア初期5年間の養成施設ルート介護福祉士を対象に、「キャリアコミットメント」「組織コミットメント」に影響を及ぼす「知識」「スキル」や、「知識」「スキル」に影響を及ぼす「経験」を探究して、自らのキャリアに対する展望を開かせようと意図している。介護福祉士が介護福祉現場に定着すれば、質の担保された介護福祉実践を利用者に提供できると見込んでいる。

超高齢社会において、介護福祉実践を担う専門職である介護福祉士には、質と量の両面を備えていることが益々期待されている。本論文によって、養成施設を卒業した介護福祉士が、介護に従事しながら、キャリアと組織に対する思い入れを強めていく様相を明らかにできた。実践的かつ独創的であり、介護現場への還元が強く期待される研究成果である。

これまでの研究においては、介護福祉士が介護福祉現場での経験からどのような学びを得つつ働いているかについては十分に分析されてこなかった。とりわけ、キャリア初期の介護福祉士は、日々の多忙な業務に追われ、自身の介護福祉実践を振り返る機会もなく、自身の将来を展望できないままに心身ともに疲弊して辞めていったと考えられる。

本論文において、キャリア初期の介護福祉士のコミットメントに影響を及ぼすのは、介護福祉現

場での経験や獲得した「知識」「スキル」であると示された。自分の日々働いていることが、自身の「キャリアコミットメント」や「組織コミットメント」につながる「経験」「知識」「スキル」であると示されたことは、介護福祉士にとって有意義と考えられる。この成果をもとにキャリア初期の介護福祉士は、自身の働き方を見直す機会を得られるだろう。

本論文では、養成施設を卒業し介護福祉士へのインタビュー調査によって得た質的データをもとに質問紙調査を企画し、的確な分析手法を駆使して検証し、得られた結果をもとに考察するという方法を採用している。対象者が少なく（n=79）分析上の限界は認められるものの、検証可能で信頼性のある知見を提起している。

本論文の結論の一つである「キャリアコミットメント」の影響要因は、第1に「他の分野を融合した幅広いスキル」であり、第2に「多職種協働のための知識」であるとの知見は、養成施設を卒業した介護福祉士が、現場で成長を重ねる過程で獲得しうる知識とスキルを明示しており、リーダーシップの内実を示唆するものである。介護従事者の中にあつて介護福祉実践をけん引していく人材として、その成長と活躍が期待される養成施設ルート介護福祉士の展望を提示した本論文は、社会的意義の高い研究成果である。

本論文では、キャリア形成に関わる変数として「キャリアコミットメント」と「組織コミットメント」の二つを並列的に扱っているが、キャリアは生涯に渡る経験の積み重ねであることから、両者をも構造的にとらえて「キャリアコミットメント」をより重要な従属変数に位置づけるべきではなかろうか。

本論文が対象としたキャリア初期5年間において、介護福祉士が蓄積する経験は複雑かつ豊かであろう。「キャリアコミットメント」と「組織コミットメント」の間も相互的かつ連続的に把握される必要がある。経験を構造的にとらえることができれば、介護福祉現場の環境を整えるという次なる課題が明確になってくるのではなかろうか。

また、施設サービスと在宅サービスの経験の違いを検討した第2章において、「テクニカル・スキル」「ヒューマン・スキル」「コンセプチュアル・スキル」の区分を抽出して得られた知見が注目される。今後、需要増が予想される在宅サービス介護人材を対象とした調査研究への潜在可能性を示している。上記の課題指摘をふまえた今後の研究の進展が期待される。以上